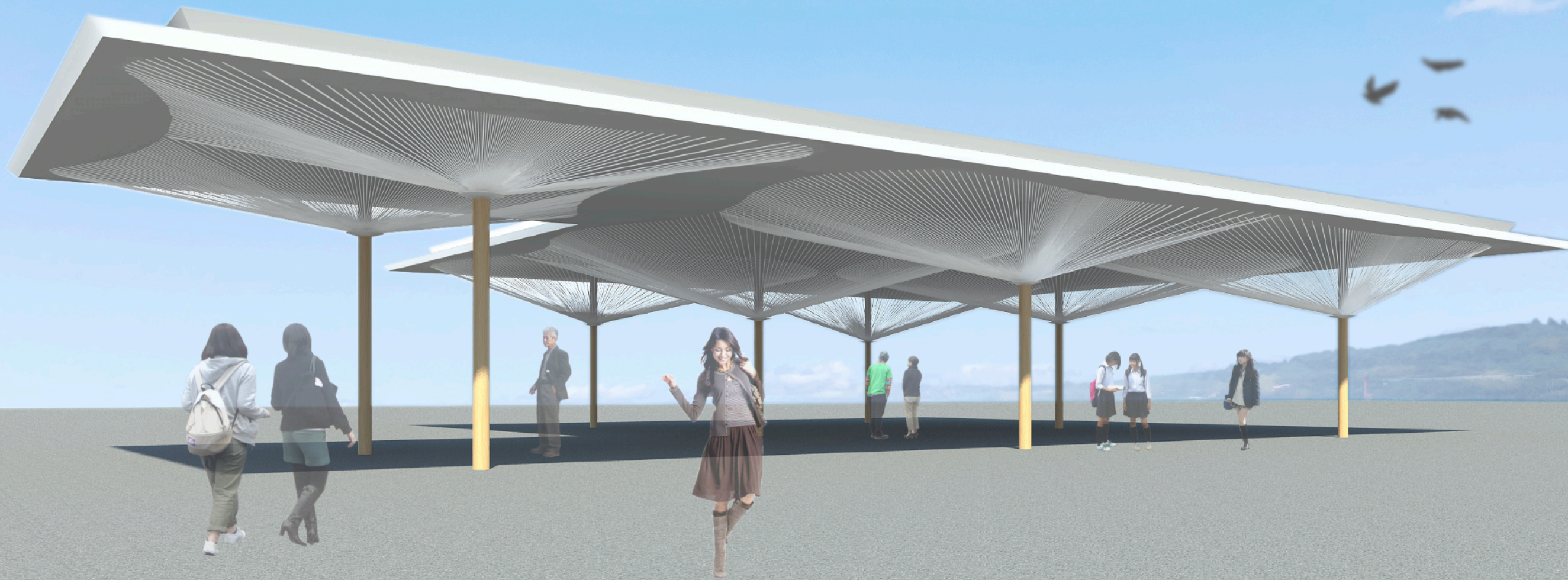


imaginary umbrella



01. 敷地分析

対象となる計画地は、本部港既存ターミナルの北側に隣接しており、“湾岸から広がる海”と“瀬底島の豊かな緑”、“瀬底大橋”を臨む環境にあります。これらを一望する景観を活かし、**利用者の視線を遮る壁面的要素を削ぎ落とし、荷捌き施設**とすることを重視しました。

そして、“既存ターミナルの赤瓦屋根”と“背後に広がる八重岳の自然”が描くゆるやかなスカイラインに配慮し、本計画の荷捌き施設は**最高の高さを抑え、シンプルで水平的な意匠**とすることを考えました。



= 背後に八重岳を臨む外観 =

02. コンセプト

建築における“柱に支えられた屋根”という一つの不變的な関係性の中に、“**柱と屋根を結ぶ無数の線の集合体**”を挿入します。

それぞれの柱から放射状に広がる線の集合体は、互いに干渉し合いながら天井全体に張り巡らされ、“**疎密と起伏によるゆらぎの表情**”を生み出します。無数の線の集合体に包まれた柱の“存在”は、人々の視線の移ろいと共に疎密の雲の中でゆらめき、“大地に根ざす静的な既存ターミナル”と“海上を自由に航行する動的なフェリー”の間に存在するような“**浮遊感のある屋根**”をもたらします。

= 天井見上げのコンセプト図 =

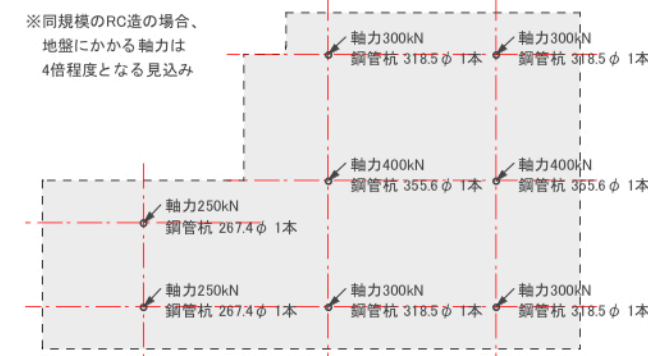


03. 建築構法

計画地の土質については、深度23m程度まで砂質土であることが想定され、地下水位は深度2m程度と浅く、液状化現象が発生する可能性が高いことが予想されます。本計画では、深度15m付近の中間層を支持層とする鋼管杭を想定し、地盤や隣接する既存ターミナルなどへの負担を軽減するために、**比較的軽量な鉄骨造**を採用します。全体架構の軽量化により、杭や基礎に係る工事規模を経済的な計画とすることができます。

屋根全体については、**軽量かつ高強度なアルミハニカムパネル**で構成し、水平に伸びるシャープな軒先の意匠を実現します。アルミ材の採用により、塩害に対する超長期的な耐久性を確保し、ライフサイクルコストにおけるメンテナンス費を抑えることができます。

また、柱から放射状に広がるワイヤーは、**高強度かつ錆びないグラスファイバーワイヤー**を採用し、暴風時においては、ワイヤー全体が屋根の吹上げ防止材として機能します。



= 鋼管杭の想定軸力 =



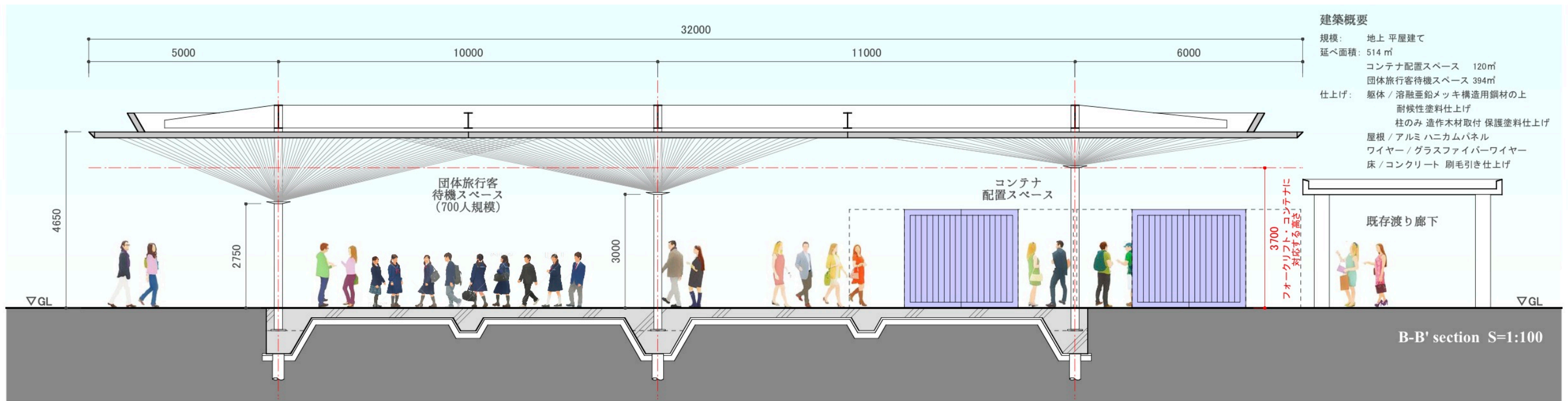
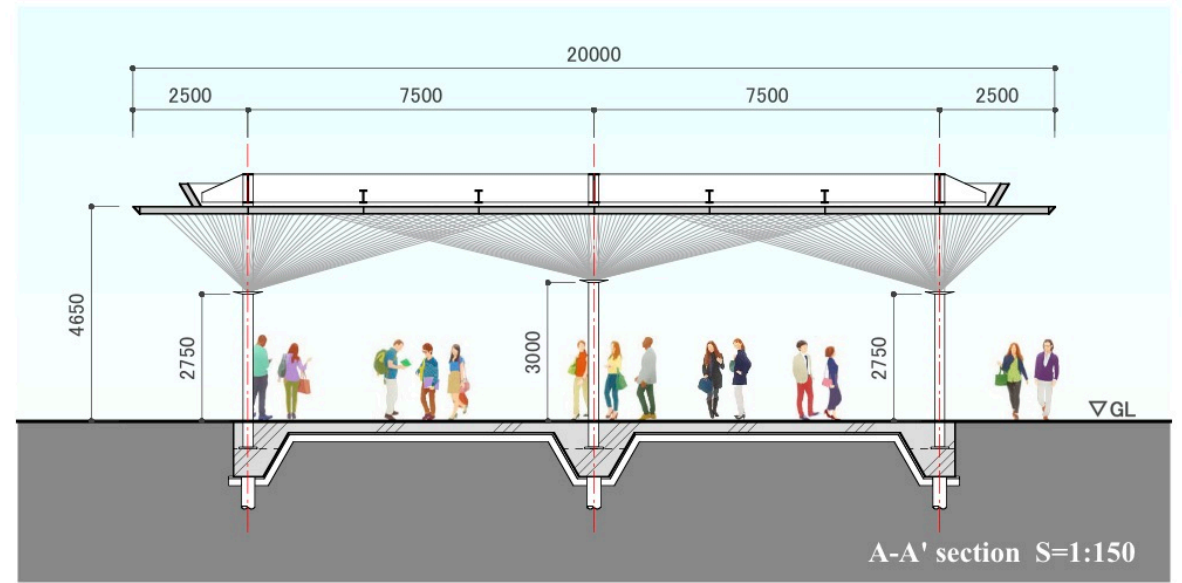
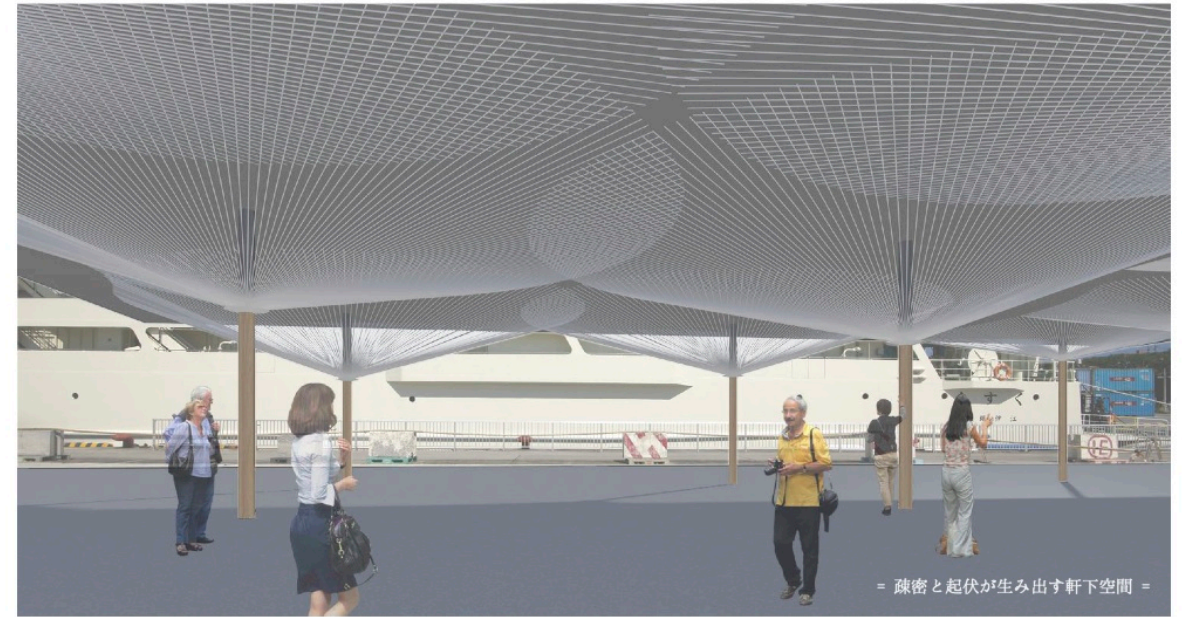
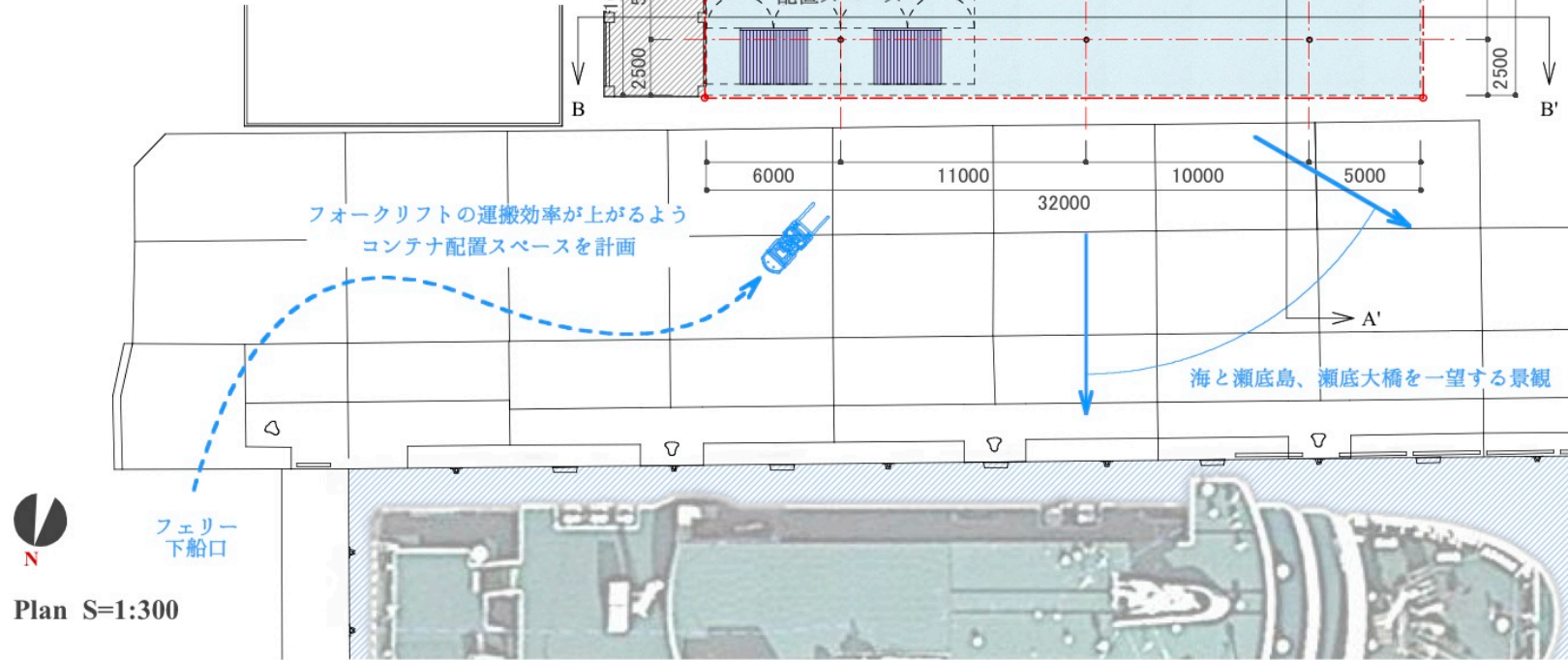
= アルミハニカムパネル屋根の事例 =

04. 建築計画

荷捌き施設における機能のゾーニングについては、コンテナをフォークリフトで運搬する作業効率の観点から、フェリー接岸時の下船口に近い、敷地東側にコンテナ配置スペースを計画し、比較的広い軒下空間を確保できる西側に団体旅行客の待機スペースを計画します。

柱から放射状に広がるワイヤーの高さは、コンテナ配置スペースにおいてはフォークリフト・コンテナに対応する高さ(3.7m)以上となるよう設定し、団体旅行客の待機スペースにおいては高さ2.75mまたは3.0mから広がるように設定します。すり鉢状に広がるワイヤーの高さによって、機能のゾーニングがゆるやかに暗示される荷捌き施設を提案します。

また、既存建物との間には光が差し込む中庭を取り入れ、暗がりとなり過ぎないように配慮した計画とします。



- 建築概要**
- 規模: 地上 平屋建て
 - 延べ面積: 514㎡
 - コンテナ配置スペース 120㎡
 - 団体旅行客待機スペース 394㎡
 - 仕上げ: 躯体 / 溶融亜鉛メッキ構造用鋼材の上
耐候性塗料仕上げ
柱のみ 造作木材取付 保護塗料仕上げ
 - 屋根 / アルミハニカムパネル
 - ワイヤー / グラスファイバーワイヤー
 - 床 / コンクリート 刷毛引き仕上げ